

【審査委員会特別賞】

人口 10 万人のむらを目指す たかが 100 人 されど 100 人のむらづくり物語

■実施主体：伊座利の未来を考える推進協議会

■場所：徳島県海部郡美波町

■背景・経過：

伊座利地区は徳島県南部に位置する美波町の東端にある三方を山に囲まれた人口 100 人ほどの孤立的小規模な漁村集落。過疎・少子高齢化の急激な進行により児童生徒数が急激に減少し、伊座利校（小中併設校）が廃校の危機に陥ったことを契機に、2000 年に全住民で構成する地域維持活動団体「伊座利の未来を考える推進協議会」を設立し、活動を開始した。交流や移住を促進するさまざまな活動を行い、数十年先まで持続的に人々が支え合えるコミュニティの形成を目的としたむらづくりを行っている。

■取組内容：

交流・移住・定住促進活動として住民手づくりの漁業体験イベントを毎年定期的開催し、全国各地から多くの参加者が集まり、地域の賑わいや住民同士の交流をもたらしている。このイベントは移住希望者の一日体験の場ともなっている。また、地域外において移住呼びかけや地域紹介等の PR 活動を実施している。地域出身者の協力を得て東京と大阪で実施したこともあり、知名度向上や様々な形で地域に貢献してくれる協力者を得ることに繋がっている。2007 年には地域の交流拠点として地域の海女さんが営む「イザリ Cafe」を開設した。地域外からの飲食客が多く、年間の利用者は 1~1.5 万人と交流人口増加の要因となっている。

移住者や交流人口が増加し、地域の賑わい創出、人口維持、高齢化率の低下を実現した。成功体験や地域の知名度向上が住民のモチベーションを向上させ、活動を継続的なものとしている。

■講評

- ・小さい規模の取組ではあるが、10 年超に渡り村人がモチベーションを維持し、取組を継続させている点は評価に値する。また、漁村の人口維持等の一定の効果も現れていることから、全国の地方都市・集落の模範となりうる取組である。
- ・地理的条件が不利な漁村集落において、住民が主体となって地区の将来像を構想し、具体的活動に繋げている姿勢は評価できる。



伊座利地区全景。50 世帯余りが暮らし、住民の約 6 割を移住者が占める。



漁村体験イベント。漁船クルージング体験や磯遊び等を通じて、漁村生活の理解を深めている。



東京銀座での PR 活動。住民 30 人が出向き、地域特産品の販売、伊座利校の活動写真の展示等を行った。



地区唯一の飲食施設「イザリ Cafe」。2 階はコンドミニアム形式の宿泊施設となっている。